

# 1 万2 千食の巨大学校給食調理場建設 コスト最優先で「食育」に値する給食可能か？

**土地がある」「コスト安」と3調理場を統合?!**

市教育委員会は新年度予算に、老朽化した第一調理場（5, 124食）と、赤堀第二調理場（5, 19食）と、あずま第二調理場（5, 60食）の各調理場を統合し、東地域の西小保方町に、1万2千食調理可能な巨大調理場を建設する方向で、基本設計委託料を盛り込みました。

設計はこれからで、建設費は未確定。「4千食のラインを3つ作る。」地場産野菜の利用は、引き下げないようにしたい。」といっています。しかし、高崎市や太田市のように、子ども達に温かくおいしい給食を」と学校内調理場を増やしている自治体もある中、なぜ巨大調理場建設なのか、疑問です。土地がある」大量仕入れだと、コストが安くなる」という理由では、「食育」などと口にできません。

**今でも異物混入あるのに  
安心・安全の給食」に不安**

学校給食調理場運営委員会議事録や議会答弁によれば、今でも食数が多い調理場では野菜等の洗浄が不足し

## 命と暮らしを直撃する 介護保険料引上げと制度改悪

新年度から、介護保険料基準額の23.3%アップ(57,500円→70,900円)による保険料引き上げが、高齢者の暮らしを直撃します。

さらに、「国や大企業の社会保障負担をどう減らすか？」を目的に、以下の様な負担増・制度改悪が始まります。

制度の抜本的な改善以外に命や暮らしを守る道が無いことは、明らかです。

### 《負担増・制度改悪》

- 特別養護老人ホーム入所基準の改悪（介護度1以上から介護度3以上に）
- 居住費・食費の補足給付縮小＝値上げ
- 特養ホーム相部屋の室料徴収（月1.5万円）
- 介護報酬2.27%引下げ（以上、今年度から）
- 年収280万円以上の人の利用料1割から2割に（今年8月から）
- 軽度者「要支援1・2」のヘルパー・デイサービスの保険外し（来年度から）

たりして、プラスチック片や虫などの異物混入が起こっています。赤堀・あずまでは、地場産野菜を使ったおいしい給食が評判です。統合ありきの運営委員会の審議だけで、父母の意見も聞かず統合を決める強引な進め方に、日本共産党議員団は「安上がりの給食で食育といえるのか？」と反対しました。保護者・子ども・市民の意見を聞け」と声をあげていきましよう。



**北島元雄**

文教福祉常任委員  
少子高齢化対策  
特別委員

議会運営委員

24-8410

090-4065-2120

波志江町 3626



**長谷田公子**

建設水道常任委員  
地域経済振興対策  
特別委員

25-1130

070-5564-6271

八幡町 44

## 生活 **無料** 法律相談

毎月第4月曜日午後6時より  
お申込みは日本共産党市議まで

●弁護士・市議会議員が親身にご相談に応じます。